

平成29年度 学校経営計画

1 学校教育目標

- ・ 知性を磨き、社会の進展に対応できる力を育てる
- ・ 自他尊重の精神と情操豊かな心を育てる
- ・ 健全な心身と未来を拓くたくましい力を育てる

2 学校の特徴

- ・ 5学科7クラスの総合制高校として魅力ある教育活動が展開できるよう、各学科の特性や生徒の実態等を踏まえ、一人ひとりの自己実現の達成をめざした教育活動を推進しています。
- ・ 地元氷見市からの入学者の割合が高く、地域との結びつきの強い、氷見市で唯一の高校です。生徒の気質は明るく素直で、学習や部活動、生徒会活動をはじめ学校生活全般にわたって、ひたむきに一所懸命に取り組む校風があります。
- ・ 普通科4学級(160名)では、ほとんどの生徒が国公立大学を主とした四年制大学への進学を目指しており、2年次より文理探究コース、理系、文系の類型別授業を編成しています。基礎重視の授業と個別面談をもとに、生徒個々の興味・関心や進路希望等に応じた学習活動の充実に取り組んでいます。
- ・ 専門学科は、農業科学科(20名)・海洋科学科(20名)、ビジネス科(40名)、生活福祉科(40名)を3学級で編成しており、基礎学力の向上を重視するとともに、体験的学習や資格取得などを通して、進路実現に向けた知識・技術の習得にも取り組んでいます。
- ・ 全学科を通して、地域の自然や文化と直接ふれあう「HIMI学」の履修、進路実現をサポートする「キャリア教育」の推進、学科の枠を越えて科目選択ができる「総合選択制」の実施など、特色ある教育活動を展開しています。

3 学校の現状と課題

本校では『文武両道』の校風を大切にし、学習と部活動の両立に努めています。部活動では、ハンドボール部や自転車競技部等の全国的な活躍をはじめとして、多くの成果を上げています。一方、生徒の学習意欲や進路意識の多様化が進む中、学校全体として、学習や進路の意欲向上を図ることが一層求められています。また、生活面においては、社会性や規範意識を醸成し、家庭や地域との連携に根ざした信頼される学校づくりをさらに進める必要があります。

以上のことを踏まえ、本校では、次の3つの観点から学校経営に係る様々な課題に取り組んでいきます。

- (1) 知性の向上（基礎・基本の確実な定着と個々に応じた自主的学習態度の育成）
- (2) 品性の向上（基本的生活習慣の確立と自律意識及び自己肯定感の育成）
- (3) 信頼される学校づくり（家庭や地域とのより良い連携の推進）

(様式3)

平成29年度 氷見高校アクションプラン - 1 -																														
重点項目	学習活動（生徒の家庭学習習慣の定着と教師の授業力向上）																													
重点課題	自主的学習態度の育成と授業の改善																													
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 平日の家庭学習時間が2時間以上の生徒(H28年度 普通科) <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>9月調査(第1週)</td> <td>平日</td> <td>1年 26%</td> <td>2年 19%</td> <td>3年 66%</td> <td>全学年 37%</td> </tr> <tr> <td>(9/1~9/7)</td> <td>休日</td> <td>1年 63%</td> <td>2年 66%</td> <td>3年 80%</td> <td>全学年 69%</td> </tr> <tr> <td>11月調査(期末考査直前)</td> <td>平日</td> <td>1年 35%</td> <td>2年 42%</td> <td>3年 66%</td> <td>全学年 47%</td> </tr> <tr> <td>(11/23~11/29)</td> <td>休日</td> <td>1年 73%</td> <td>2年 83%</td> <td>3年 78%</td> <td>全学年 78%</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 1、2年生においては、日々の学習習慣の確立に、課題が残る状況である。一方で、定期試験に向けた学習時間さえも確保できていない生徒も多く、二極化の改善が課題である。また、平成28年12月実施の授業についてのアンケート調査では、授業はまじめに取り組んでいると自己評価する生徒は90%を超えるが、予習・復習を積極的に実施する生徒は、50%を割っているのが現状である。 週末課題や小テストによる計画的かつ自主的な家庭学習習慣の定着、互研授業の実施等による授業の質の向上、文理探究コースの探究活動、アドバンスクラブによる牽引集団の養成等を図りながら、生徒の学力向上に努めている。 専門学科では、専門教科と普通教科の連携を図り、授業を基本とした課題の提出、小テストによる普通教科の計画的かつ自主的な家庭学習習慣の定着に努めている。 						9月調査(第1週)	平日	1年 26%	2年 19%	3年 66%	全学年 37%	(9/1~9/7)	休日	1年 63%	2年 66%	3年 80%	全学年 69%	11月調査(期末考査直前)	平日	1年 35%	2年 42%	3年 66%	全学年 47%	(11/23~11/29)	休日	1年 73%	2年 83%	3年 78%	全学年 78%
9月調査(第1週)	平日	1年 26%	2年 19%	3年 66%	全学年 37%																									
(9/1~9/7)	休日	1年 63%	2年 66%	3年 80%	全学年 69%																									
11月調査(期末考査直前)	平日	1年 35%	2年 42%	3年 66%	全学年 47%																									
(11/23~11/29)	休日	1年 73%	2年 83%	3年 78%	全学年 78%																									
達成目標	① 1週間の家庭学習時間(普通科対象)			③ 互研授業の見学回数																										
	合計15時間以上の生徒が 1年50%以上 2年60%以上 3年70%以上			1人年間3回以上																										
	② 意欲的・主体的に学習に取り組めたと自覚する生徒の割合 (学習満足度調査、生徒自己評価)			④ 互研授業に関する教科部会																										
	70%以上			教科部会を1回以上(年間)																										
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 学年、進路指導部、企画部との連携を密にし、進路統一HRなどを取り入れながら、早期に進路目標を立て、その実現に向けて学習に取り組むよう指導する。 学習計画表をもとに、丁寧な面接指導等を行い、適切な助言を与え、生徒の家庭学習を支援する。 計画的に週末課題や小テストを実施し家庭学習習慣を定着させる。 読書を通して意欲や読解力の向上を喚起できるよう工夫する。 平成28年度試作のマスタリーラーニング教材の活用効果を検証しながら、生徒一人ひとりの実態に応じた有効的な活用を進め、主体的な深い学びにつなげるよう支援する。 			<ul style="list-style-type: none"> 1、2学期に「互研授業週間」を設定して、授業研究を行う。 「互研授業週間」終了後、教科部会の研修において、相互評価及びより良い授業のあり方についての検討を行うことで、教師間で学力観の共有と指導法の改善を図り、その成果を報告する。 シラバスの作成を通して、評価規準及び指導計画の改善を図る。 																										

平成29年度 氷見高校アクションプラン - 2 -

重点項目	学習活動（教科実践力の育成）	
重点課題	実践的学習活動の定着	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学力差が拡大していることや、計画的な学習の取り組みに対しても意識と行動に格差が生じている。これらの二極化に対して、国語や英語、数学等の普通教科では、年間の学習計画を生徒に予め示すことで学習意欲を高めていく必要がある。 農業科・水産科・家庭科・商業科などの専門教科では、基礎学力の向上と専門内容の定着を図るため、クラブ活動や地域と連携した実践活動及び様々な検定取得、補習や小テストの実施を通して、学習習慣の確立と意欲の向上を目指している。 	
達成目標	① 小テストの実施回数 （国語科・英語科・理科）	② スピードテストの実施回数 （数学科）
	国・英：各10回以上（年間20回以上） 物・化・生：各10回以上（年間30回以上）	年間50回以上
	③ 家庭科技術検定 1級合格者数 （生活福祉科）	④ 1人当たり検定合格種目数 （農業科学）
	延べ50名以上	4種目（1年）、6種目（2年）、7種目（3年）ほか
	⑤ 地域交流活動への参加者数 （海洋科学科）	⑥ 全商検定試験 1級合格者数 （ビジネス科）
	延べ100名以上	延べ100名以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 学期毎に、生徒に実施計画を示し、目標を持って学習に取り組ませる。 同じ単元を繰り返して取り組ませたり、誤りを確認させたりするなど、反復学習の習慣を身に付けさせる。 目標達成のための課題を設定し、学習計画を各自で作成させるなど、学習に対する意識を高めさせる。 年間を通じた計画的な指導により、自主的な学習を促すタイミングを逃さないようにする。 	

平成29年度 氷見高校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援（進路支援力の向上）																																											
重点課題	進路意識の高揚と進路目標の達成に向けての支援																																											
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 毎年4月の進路希望調査で、国公立・私立の別、県内・県外の希望の別を集約している。調査結果に対し、最終進路が違った生徒を調査すると、昨年は2～3割程度であった。また、1年生の結果では、進路未決定の生徒が普通科25名（昨年18名）専門学科9名（昨年19名）で、普通科の生徒に進路未決定者が多い状況にある。また、2年生においては、普通科及び専門学科の進路未決定者数はクラス平均約9%である。 <p style="text-align: center;">□第3学年の進路希望状況調査（概略）（H29年4月調査）</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>大学</th> <th>短期大学</th> <th>専門学校</th> <th>就職</th> <th>未定</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>普通科</td> <td>110</td> <td>10</td> <td>28</td> <td>6</td> <td>3</td> <td>157</td> </tr> <tr> <td>専門学科</td> <td>23</td> <td>18</td> <td>41</td> <td>38</td> <td>0</td> <td>120</td> </tr> <tr> <th>昨年度</th> <th>大学</th> <th>短期大学</th> <th>専門学校</th> <th>就職</th> <th>未定</th> <th>計</th> </tr> <tr> <td>普通科</td> <td>108</td> <td>11</td> <td>31</td> <td>8</td> <td>0</td> <td>158</td> </tr> <tr> <td>専門学科</td> <td>16</td> <td>16</td> <td>33</td> <td>55</td> <td>0</td> <td>120</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> 3年生の進路希望調査の結果を今年度と昨年度で比較すると、特に目立つ項目として、次の点が挙げられる。 普通科では表の数値は、ほぼ昨年と変わらない。大学進学希望の内訳は、国公立大学志望者が昨年より15名程度多く、私立大学希望者は15名程度少ない。 専門学科では就職希望者が少なく、大学と専門学校の希望者が多い。 			大学	短期大学	専門学校	就職	未定	計	普通科	110	10	28	6	3	157	専門学科	23	18	41	38	0	120	昨年度	大学	短期大学	専門学校	就職	未定	計	普通科	108	11	31	8	0	158	専門学科	16	16	33	55	0	120
	大学	短期大学	専門学校	就職	未定	計																																						
普通科	110	10	28	6	3	157																																						
専門学科	23	18	41	38	0	120																																						
昨年度	大学	短期大学	専門学校	就職	未定	計																																						
普通科	108	11	31	8	0	158																																						
専門学科	16	16	33	55	0	120																																						
達成目標	① 3年4月進路希望調査に対して 普通科：第一志望達成率 50% 専門学科：第一志望達成率 75%	② 進路に関する個人面接(第1学年) 早期(1・2学期)に計4回以上																																										
	③ 進路意識の明確化(第2学年) 2学期末までにおける進路未決定者数の割合 クラス：5%以内	④ 進路希望の実現(第3学年) (普通科・専門学科合算) 進学希望者の国公立大合格35人以上 就職希望者の就職内定率100%																																										
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 校内模試（課題テスト）や小テストを有効に活用するとともに、模擬試験を効果的に活用して、学力を伸長させる。 1年間の進路行事やホームルーム活動でのキャリア教育を計画的に実施するよう働きかける。また、そのときに有効に使えるデータを進路指導部から学年に提供する。 進路に関する資料を整理し、面談では進路情報を活用して、内容の深化を図る。 各学年主任と連携し、3年間を見通した進路指導を行う。 																																											

平成29年度 氷見高校アクションプラン - 4 -

重点項目	学校生活（心身ともに健康で充実した高校生活）	
重点課題	品性の向上と自律意識及び自己肯定感の育成	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・さわやかな挨拶を交し合える学校を目指して、生徒会やクラス単位で定期的に「あいさつ運動」を行っているが、挨拶を意識している生徒が92%に留まっている。 ・心身不調を感じ自己肯定感を持つことができずにいる生徒が若干見られる。また、制服の着こなしやJR等公共交通機関の乗降時や車内におけるマナーに関しても、一部には意識の低い生徒が見られる。 ・ペットボトル・空き缶・空き瓶と可燃ゴミの分別が完全ではない。また、容器の中の汚れも目立つ。分別することの大切さも理解させながら、分別が徹底されるように生徒一人ひとりの意識を高めさせたい。 	
達成目標	① 挨拶・服装・交通マナー・乗車マナー等の生徒意識の向上 生徒意識調査における挨拶・服装に係る意識率の向上 95%以上 自転車の鍵かけ率 100% (カギかけコンテスト)	② ゴミの分別徹底の意識率の向上 生徒意識調査におけるゴミの分別に係る意識率の向上 95%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の「さわやか運動」、毎月実施するクラス毎の「さわやかデイ」の取り組みにおいて、活動場所や時間帯に工夫を加え実施する。 ・校風委員会及び交通委員会を中心に現状を把握し、「挨拶の励行」「交通安全（自転車乗車マナー等）」「JR等公共交通機関の乗車および乗降時のマナー」など社会的マナーの向上に努める。 ・自転車の施錠率も低いので、中学・高校を対象とする「自転車カギかけコンテスト」に参加する。 ・年間5回のクリーンアップディでゴミの分別を重点項目に取り上げ、生徒の意識を喚起する。 ・定期的に保健委員が教室内のゴミの分別をクラスの生徒に呼びかけたり、掲示物によって知らせたりする。 ・全校集会で、生徒保健委員長からゴミの分別について全体に注意を促す。 	

平成29年度 氷見高校アクションプラン - 5 -			
重点項目	家庭との連携（地域や家庭（PTA）・同窓会との連携強化）		
重点課題	地域や家庭（PTA）・同窓会との結びつきを大切にする取り組みの推進		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の地域と連携した活動への参加を積極的に進めており、地域交流活動への参加者数は、H23年度309名、H24年度467名、H25年度1,249名、H26年度1,498名、H27年度967名、H28年度1,789名と数は増加してきている。しかし、これらは延べ人数であり、特定の生徒が何回も参加しているようである。 昨年度のPTA総会後に学年懇談会を実施したところ、総会への参加人数が一昨年の1.26倍、3年前の2.05倍と増加した。PTA行事の運営を工夫することにより、より多くの保護者の参加を得ることができた。 新高校の同窓会として3年目の総会を迎える。新高校の卒業生が積極的に総会の運営に関わっていく体制づくりを模索している。 		
達成目標	<table border="1"> <tr> <td>① 地域の交流活動等への参加者(年間) 延べ1,500名以上（生徒1人1回はボランティア活動に参加する）</td> <td>② PTA活動への保護者の参加率 全学年PTAの40%以上 進路に関するPTA研修会への保護者の参加率70%以上(第3学年)</td> </tr> </table>	① 地域の交流活動等への参加者(年間) 延べ1,500名以上（生徒1人1回はボランティア活動に参加する）	② PTA活動への保護者の参加率 全学年PTAの40%以上 進路に関するPTA研修会への保護者の参加率70%以上(第3学年)
① 地域の交流活動等への参加者(年間) 延べ1,500名以上（生徒1人1回はボランティア活動に参加する）	② PTA活動への保護者の参加率 全学年PTAの40%以上 進路に関するPTA研修会への保護者の参加率70%以上(第3学年)		
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 各クラスや生徒玄関の掲示板に活動案内や活動状況、参加者の感想等を掲示し、生徒の参加意識を高める。 生徒会ボランティア推進委員会やJRC部、また専門学科の各クラブ活動にも、積極的な参加を働きかける。 保護者に関心が高いと思われる企画や情報を用意し、総会や研修会・学年懇談会に参加したいという気持ちを持ってもらえるように工夫する。 昨年度から実施している同窓会報を市内の各家庭に配布したり、ホームページによる広報活動を工夫したりすることで、同窓会の情報を広く知らせ、関心を持ってもらう。 		

平成29年度 氷見高校アクションプラン - 6 -			
重点項目	情報活用		
重点課題	適切な情報発信力の育成及び情報共有手段の活用		
現 状	<ul style="list-style-type: none"> スマートフォンの普及により、本校生徒のほとんどがSNSを利用し、手軽に様々な情報を発信している。しかし、安易な書き込みがトラブルに発展したり、不適切な情報を発信してしまう事例が心配される。 毎年、情報共有手段として、氷高ほっとメール（教育情報メール）の登録を保護者に呼びかけている。しかし、学年によって、保護者の登録意識に差が見られる。 		
達成目標	<table border="1"> <tr> <td>① 情報機器の適切で安全な利用等に係る標語作成及びコンクール等への生徒の応募総数 400通</td> <td>② 氷高ほっとメール（教育情報メール）の保護者登録率の向上 90%以上(第1学年) 現状の保護者登録率の向上(2,3学年)</td> </tr> </table>	① 情報機器の適切で安全な利用等に係る標語作成及びコンクール等への生徒の応募総数 400通	② 氷高ほっとメール（教育情報メール）の保護者登録率の向上 90%以上(第1学年) 現状の保護者登録率の向上(2,3学年)
① 情報機器の適切で安全な利用等に係る標語作成及びコンクール等への生徒の応募総数 400通	② 氷高ほっとメール（教育情報メール）の保護者登録率の向上 90%以上(第1学年) 現状の保護者登録率の向上(2,3学年)		
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 単にスマートフォンやパソコンを利用するだけではなく、受け手の状況を踏まえて情報の発信や伝達をするように授業や講演会等を通じて啓発する。 学期ごとに、情報機器の適切な使用について生徒自身が標語にまとめ、発表する機会を設ける。 入学前の合格者説明会で保護者の登録を促し、利用価値が大きいことをしっかりと伝える。 入学以降は、特に1学期を登録推進月間として引き続き保護者に登録を勧める。 全体への一斉メール以外に、学年や学科に特化した必要な情報も、精選して配信するように努める。 		